

「鹿屋から出撃する特攻隊員に 生花の代わりに花の絵を贈った」と生前語った轟義雄。
紙に描かれた花を胸に飛び立った彼らに何を想ったのか。

20. 5. 22.

平成29年(2017)
4月5日(水)
▶7月20日(木)
会期中無休

企画展

紙上に咲く花

海軍従軍画家 轟義雄

《主催》筑前町立大刀洗平和記念館

協力 ※順不同・敬称略
江原道子、轟政章、馬目世母子、中村研一・琢二生家美術館、有限会社門脇美術、防衛省防衛研究所、佐世保市立図書館、海上自衛隊鹿屋航空基地史料館、海上自衛隊佐世保史料館、光西寺、公益財団法人宗像ユリックス
開館時間／9:00～17:00 (入館は16:30まで)
入館料／大人500円 高校生400円 小中学生300円 *15名以上団体割引各100円引 *障がい者割引あり

大刀洗平和記念館 検索



紙上に咲く花

海軍従軍画家 轟義雄

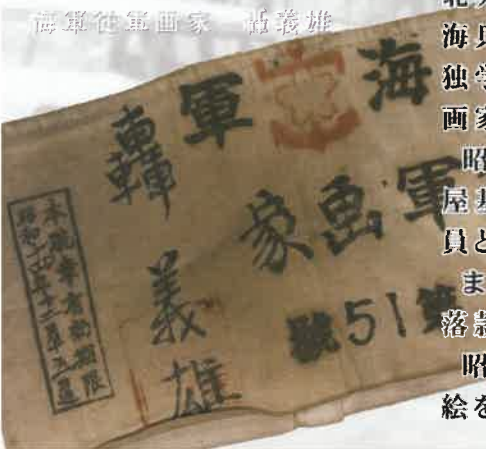
轟義雄は、大正元年(1912)8月25日に福岡の八幡市(現・北九州市八幡東区)に生まれました。昭和7年(1932)、佐世保海兵団にて機関兵となります。轟が他者と一線を画したのは、独学で磨いた絵の巧さ。28歳の時には中南支方面へ海軍従軍画家として派遣されます。



昭和19年(1944)1月、「第二鹿屋航空隊」設立準備のため鹿屋基地へ駐在。その後海軍人事部に派遣され、報道班絵画要員として鹿屋に滞在していたとみられます。

また、画家として「禧玖嗣朗」の名を用いています。この頃の作品以降、(禧)の落款やサインが多く見受けられます。

昭和20年(1945)までの作品750点の中から、轟の履歴をたどりながら選んだ絵を中心に展示します。



佐世保鎮守府

佐世保市立図書館 蔵

昭和7年(1932)に現役編入、海軍機関兵となった轟。建造物や海兵団制服姿の写真から、佐世保鎮守府を紹介します。



(左)艦内で自ら描いた絵を展示(左側が轟氏)
(右上)佐世保鎮守府
(右下)佐世保海兵団本部と第一兵舎



支那事変

支那事変勃発後、従軍画家の数は増加し、マスメディアなどの推進力も伴って、戦争画は記録や報道、戦意高揚の一端として定着します。昭和14年(1939)、轟もまた海軍従軍画家としてその渦中に中南支方面に派遣されました。当時の従軍画家たちのようすをお伝えします。



鹿屋基地

昭和19年(1944)2月1日付で開隊した「第二鹿屋航空隊」設立準備委員として鹿屋基地に赴任。轟が終戦までに描いた作品と、共に活動した画家・門脇俊一とのエピソード、そして特攻隊員へ贈った花の原画を展示します。



千人針を首に巻いた飛行兵



報道班の門脇俊一



海軍報道班員



(上)滑走艇
(左下)岳州にて
(右下)自画像 上海にて

関連展示

「戦争記録画の重鎮 中村研一」
「戦後の創作 雲仙・光西寺」

※会期中作品の入れ替えを行います



筑前町立大刀洗平和記念館

〒838-0814 福岡県朝倉郡筑前町高田2561-1
電話/0946-23-1227 FAX/0946-23-9009
アクセス/車: 大分自動車道筑後小郡ICまたは甘木ICから10分。
国道500号線沿い、太刀洗駅前交差点すぐ
JR: 鹿児島本線基山駅にて甘木鉄道乗り換え、太刀洗駅下車すぐ
西鉄電車: 小郡駅から甘木鉄道に乗り換え、太刀洗駅下車すぐ

筑前町立大刀洗平和記念館 応援プロジェクト

ご寄付を募集します。(ふるさと納税)
お預かりした寄付は、大刀洗飛行場戦跡の保存や講演会・企画展開催など 大刀洗平和記念館運営にも活用します。

お問い合わせ 筑前町企画課
TEL 0946-42-6601
FAX 0946-42-2011